



# 美原&美原東

# ロイヤル・ニュース

MIHARA & MIHARA-HIGASHI ROYAL NEWS 2012 SUMMER Vol.23

○平成24年7月30日発行（年2回） ○発行人／野瀬泰良 ○企画・編集・発行／（宗）宙吟教霊園管理部

## 待望の管理棟ビル（墓参者休憩所、法要施設）が完成

### 美原東ロイヤルメモリアルパーク

#### 六月二十八日から新館事務所で業務開始

本年二月から建設工事を進めて参りました美原東ロイヤルメモリアルパーク管理棟ビルの二階事務所が六月中旬に完成し、同月二十六日、旧事務所に待機していた丸長石材の営業部員は新館事務所に引越を行いました。同月二十八日からは墓参客様にも新管理棟内を内覧いただき、この日から新館のトイレも利用いただくことになりました。トイレだけは、年中、二十四時間、何時でも使用できるようにしています。

その後も二階の休憩室や法要施設造りの工事を続けておりましたが、それも七月末には完成いたしました。新事務所を開設してより順次、法要施設利用予約の受付を開始いたしました。八月二日からは美原ロイヤルから霊園施主宗教法人の霊園管理部の職員が新館事務所に赴任し、丸長石材の営業部員とともに美原東の霊園清掃、花壇の整備や法要室の貸出業務を行っています。



美原東ロイヤル新管理棟の外観

新管理棟の特徴は二階にあります。二階のスペースがガラスの扉で仕切られた一つの部屋に分かれますが、普段は共に休憩室として利用され、ご家族ご親族がテーブルを囲んで、GMを聴きながらコーヒーなどを飲んでくつろいでいただけます。ただし法要で片方の部屋を貸し切りでご使用になるときはエレベータに近い北側の部屋だけが休憩室となることはご容赦下さい。



美原東ロイヤル新管理棟の一階事務所受付カウンター

#### 七月末には新管理棟二階の休憩室・法要室が完成

新管理棟の特徴は二階にあります。二階のスペースがガラスの扉で仕切られた一つの部屋に分かれますが、普段は共に休憩室として利用され、ご家族ご親族がテーブルを囲んで、GMを聴きながらコーヒーなどを飲んでくつろいでいただけます。ただし法要で片方の部屋を貸し切りでご使用になるときはエレベータに近い北側の部屋だけが休憩室となることはご容赦下さい。



二階法要室

第二休憩室

は原則として二十五名様までとさせていただきます。しかし二十五名様を若干超える場合は、その旨霊園管理部にご相談下さい。法要施設の奥には舞台があって、舞台の奥の内陣にはこの霊園の施主である神道系宗教法人の神殿（祭壇）が設置されています。



法要室の舞台の上

#### 休憩室を飾る絵と法要室を飾る写真

この二階の休憩室には百号の力強い油絵「天神祭 催（もよおし）太鼓」が飾られています。この絵は霊園施主の宗教法人代表の中学時代の恩師で、現在も一創会の委員として活躍なさっている大野嘉美（おおのよしみ）先生が、霊園代表に懇願され、この部屋に飾る為に特別に描いて下さった作品です。天神祭りの始まりを知らせる催太鼓の絵です。

また隣の法要室には、神道で言う、頭界（うつつしよ）と幽界（かくりよ）とが交差する世界のような、幽玄なる神秘の世界に落ちていく籠を写した写真「高千穂峡」が掛けられています。この写真は霊園代表の友人、江川洋氏が撮影し、フエースブック上で発表された作品ですが、これも霊園代表が江川氏に懇願したことで、この部屋に特別に飾られることになったものです。



「天神祭催太鼓」の絵が掲げられた第一休憩室



江川洋「高千穂峡」

#### 管理棟竣工に伴う園内の道路の整備

以前半屋の事務所があった処は元通り四台の駐車場に戻しました。その場所から奥の第二区画への移動は今後、管理棟内の廊下を歩行していただきます。トイレ室を出て、横断歩道を渡り、幅の狭い歩道を歩いていただきます。第一区画の大駐車場に入り、車から見れば、中央分離帯の様なこの歩道が運転の邪魔になり、慎重に徐行しなければなりません。これも園内の歩行者の安全を第一とする為の施策とご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### CO2削減に取り組み美原東管理棟

七月二十三日から五日間の工期で、美原東ロイヤルメモリアルパークが再生可能エネルギーで昼間の電力が賄えるように新管理棟の屋上にパナソニック製の太陽光発電パネルが設置されます。その最大出力は五七六キロワットです。そして館内の照明の殆どが省エネのLED照明になっています。

#### 美原ロイヤル管理棟にテレビを設置

美原ロイヤルメモリアルパークの管理棟の休憩室に七月からテレビが設置され、墓参者にはロンドンオリムピック関連の放映を楽しんでいただきました。今後も墓参客様にNHKニュースや、国会中継、スポーツの国際競技などの放映を観ていただこうと思っております。



美原ロイヤルのテレビが設置された休憩室

第三回 瓜生(瓜破)野、渡辺(天満)橋の戦い

楠家と和田家の親しい関係

室町開府翌年、三三三九年の後醍醐天皇の崩御から八年後の一三四七年(正平)年八月、南朝方の劣勢を挽回しようとする古野朝廷軍帥、北畠親房卿が書いた筋書き通り、辺境の土豪、楠和田勢による叛乱は、幕府守護体制への武力蜂起に現れて、紀州隅田城の奇襲から始まり、池原(狭山池北岸)から岩井寺、八尾と燎原の火のこきり広がった。これに対し京の幕府から、細川頼氏(あきうじ)河内和泉守を総大将に十九国、五千を超える兵が河内に送り込まれたが、結果は少数の楠和田勢の大勝利に終わったことは前章に述べた通りである。

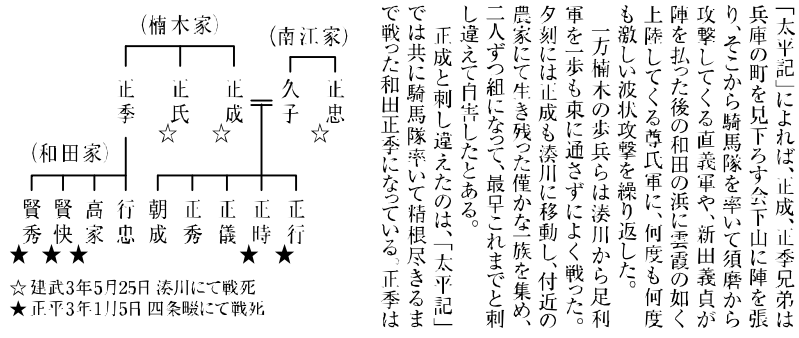
さて楠木家改め、楠家の当主は、先の淡川の戦い(三三三六年)で父の楠木正成が討ち死にした後、未亡人の久子に厳しく育てられた長男、正行(まさなり)二十二歳であるが、楠家と徒党を組んで足利方に叛旗を掲げた和田家について改めて説明しよう。

この新聞の六回前、観心寺の章にも書いたが、楠木正成には弟が二人いて、人は正氏(まさよし)と、もう一人は正季(まさよし)と云った。この末の弟、正季が和泉の和田家に養子に入った。即ち南河内の領主、楠木家と和泉の領主の和田家は共に新興の土豪であるから、地域産業を振興する施策や利害が合致するほどに元々親しかつたのだ。因みに和泉の和田一族が治める地を後に岸和田と呼ぶようになった。

さて十一年前、足利与党、姫路の赤松攻めから京に戻る途上の新田義貞が率いる官軍三万の兵を、山陽道を西から追いかける足利直義(ただよし)と、海から兵庫に先回りして上陸し、官軍を挟み撃ちしようとする足利尊氏(たかうじ)に対して、自ら盾となす官軍を無傷で京に帰せと後醍醐天皇に命じられ、この楠木三兄弟は揃って正成夫人の兄、南江正忠と共に兵庫淡川に出陣した。建武の中興となつて僅か二年五月後のことである。この時代の伝聞を南朝史観から物語風に書かれたのが、平家物語と肩を並べる日本古典の「太平記」だ。その



中世に摂津国東部の生産地と人口が密集する浪速のデルタ地帯を結ぶ物流の命綱だった「渡辺橋」があったのは、現代の天満橋付近だと推測される。今は淀川は遙か北を流れ、天満橋は大川を渡るのみである。室町時代には淀川も大川も大和川も流れ込んだのであるから、渡辺橋が渡る大河は現在の二倍も三倍もの川幅があったであろうと想像される。楠軍の軍事的利害だけで考えるなら、この橋を焼き落とすことが効果的だろうが、橋に生活必需品の流通を委ねる庶民の暮らしを考えれば、楠正行もそれはやはり出来なかった。



「太平記」によれば、正成、正季兄弟は兵庫の町を見下ろす六下山に陣を張り、そこから騎馬隊を率いて須磨から攻撃してくる直義軍や、新田義貞が陣を払った後の和田の浜に雲霧の如く上陸してくる尊氏軍に、何度も何度も激しい波状攻撃を繰り返した。一方楠木の歩兵は淡川から足利軍を二歩も東に通さずによく戦った。夕刻には正成も淡川に移動し、付近の農家にて生き残った僅かな族を集め、二人ずつ組になつて、最早これまでと刺し違えて自害したとある。「太平記」では共に騎馬隊率いて精根尽きるまで戦つた和田正季になっている。正季は

(室町)勲教代表役員 野瀬泰良

「太平記」の作者が思い違いをしたのではなく、意図的に正成と刺し違える相手を書き換えたのだと思う理由を示そう。それが三三三七年八月に始まる翌年、二月名の足利幕府への叛乱である。この叛乱の首謀者は正成の長男、正行(まさなり)であったが、彼に従つたのは弟、正時(二十歳)、そして和泉の当主、和泉正武(二十九歳)で、正武の父、正成には義弟になるのである(ここははっきりしない)。和泉正季の遺児達つまり正成には甥になり、正行には従兄弟になる。行忠(二十二歳)、賢秀(二十一歳)、高家、賢快、の四兄弟である。

死ぬ前に正成に「七度生まれ変わっても、賊軍には与くみせず、官軍となつて賊を討つてあらう」と宣言し、成仏することさえ急遽したと書かれている。この正季伝説が、太平洋戦争に絶対に圧倒的優勢だった米軍に対し、絶対に負けを認めず、最期まで命を賭して戦い続けよとの、国民をして特攻に走らせる精神教育の看板、「七生報国(しちせいほうこく)」の基となつたのである。

瓜生(瓜破)野の戦い  
さて八月の八尾、葛井寺の戦いで、幕府軍の総大将を務めた河内和泉の守護、細川頼氏は叛乱鎮圧失敗の責めを負う形で、以後は不名誉にも幕府軍の総大将の役目(山名時氏)に就任することになった。この百一十年後、細川家と山名家が応仁の大乱を起し、大トを二分して争うことになるのも、両家の確執の種は、この時に蒔かれたとも言えよう。応仁の乱の片方の旗、細川勝元は頼氏の従兄弟、頼春より四代目の孫に当たり、相手方の將、山名宗全は時氏から三代目の孫に当たるのだ。楠、和泉反乱軍討伐の旗揚げは同年、十一月二十四日、山名時氏が京を発して神崎に陣を進めたことに始まる。翌日の夕刻、楠軍は岩田八幡に、和田軍は池尻(狭山池北岸)に集結。幕府軍の別働隊、赤松勢千騎は和泉和田の本拠を叩いたため、遠里小野まで陣を進めた。一方今回の反乱鎮圧の総大将を務める山名時氏率いる千騎は、東条から岩田に陣を進めてきた楠軍本隊に對峙しようとする間に陣を進め、それに続くように阿倍野には佐々木、土岐、明智軍千四百騎が、そしてその北側の四天王寺周辺には細川頼氏率いる四千人の軍勢が陣を構えた。しかし細川勢は、今回は遠く代わつて総大将になった山名時氏のお手並みを見たと、戦を静観したかったのだ。

かくして瓜生野に山名軍の騎馬兵と楠、和田軍の騎馬兵との正面衝突が始まった。楠、和田勢の騎馬部隊九百騎は、二者に各方面から三倍の数の山名勢の中に入つて行った。すると突如、楠正行が騎馬隊の陰に隠し、九百名の長柄の槍を構えた歩兵が姿を現し、馬上の鎧武者や馬の横腹を突いて、騎馬兵らを次々に落馬させた。両軍もみ合ひ中で、山名時氏の弟、兼義までが、楠の歩兵の槍に突かれて落馬し、大勢の歩兵に囲まれ、首を獲られた。山名の御大将を討ち取つたぞ、と口々に叫ぶ楠方歩兵の声を聞いて、山名勢の戦意は喪失し、やがて攻守が逆転し、山名勢は総崩れとなつて北へと退却し始めた。

逃げ惑う敗残兵の中で陣屋を捨てた細川頼氏  
赤松勢は和泉別働隊を追つて泉州界に入つたが、深追したところ、危険と遠里小野に引つ返したところ、東の瓜生野に舞い立つ大砂塵を見た。楠軍を我孫子方面へと移動させる。そこで彼らが見たものは、楠和泉勢に追いかかれ、北の渡辺橋がけて逃げ帰る何千もの山名の敗兵たちの姿であった。これはいかん、敗兵ほどの多数の敗残兵が度々渡辺橋を渡れる筈はない、先に橋を渡らなければ、自分たちが敵軍の刃の餌食にされてしまうのだ、と赤松勢も山名の敗兵の先回りをするよう西に迂回して渡辺橋に向かつて急ぐことになった。



を務め、地理に詳しくあった細川頼氏、彼らの後は追わずに神崎方面へと脱出した。

楠正行、淀川に溺れる敵兵の救出を命じる

渡辺橋は、淀川が京から下る途中、守口付近では神崎川を、長柄辺りでは中津川を分流した後に、平野川、大和川を合流する付近の根本にあったと言われ、今日の天満橋付近にあったと推定される。浪速の地に流れる無数の河川は、その中に袋小路や複雑な隘路を作り、地理に疎い外來者が浪速のデルタ地帯からの脱出路として思い浮かぶのは、渡辺橋しか無かったのだ。だから幕府軍の敗兵の殆どが渡辺橋に殺到することになった。

一番早く渡辺橋を渡って摂津に抜けたのは赤松勢だ。山名の敗兵を追って敗走し始めた細川勢だが、彼らも比較的地理に明るかったから、山名の敗兵が走る道の東側を迂回することで渡辺橋には先に到着した。山名の敗兵たちの先頭が橋の袂に着く頃には、一間そこそこ幅の橋を渡るのに細川勢が並んでいた。自分たちがこの橋を渡るのは何時のことかも分からない始末だった。あの火花の夜の明石の陸橋事件のような状況だったのだろう。橋を渡っている兵らでさえ、押し潰されそうになつて、欄干から川に飛び込む者が後を絶たなかった。後ろからは楠、和田勢の刃を振りかざした騎馬隊がすぐそこまで迫っている。山名の敗兵たちは細川勢が橋を渡るのを待ちきれず、次々に川に飛び込み、速い流れに流されて行った。時は陰暦十一月だから、今の暦では年の暮れの頃である。陽は暮れ始め、粉雪がちらほらと舞い散る中、淀川の水は容度に近かった。

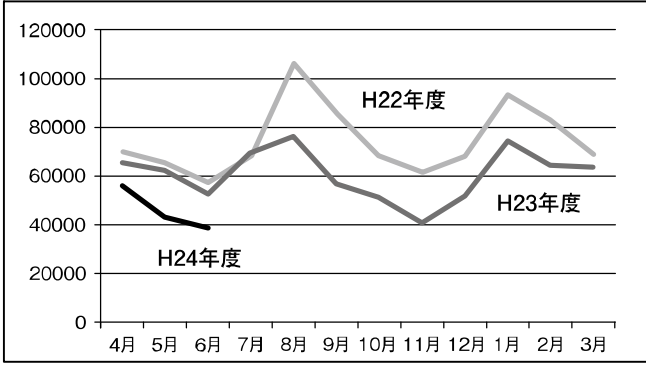
そこをやつてきた楠、和田軍の総大将、楠正行は、敵兵の多くが淀川に流され、溺れる様を見て、これを救出するように命令した。救出した敗兵には、岸辺に火を焚いて暖を与え、衣料を給したと伝える。そしてこれらの兵に「故郷に帰るか、降ぐだつて正行(まさつら)の味方になるか、意のままにせよ。」と伝えた。救助した敗兵の殆どは、山名の手勢であったが、大半が感泣して止行の部下となることを誓った。中には「橋を渡つて帰りがけだが、引き返して来て、味方に加えてくれという者もあった」と伝えている。

(第三回 瓜生野、渡辺橋の戦い 完)

# 進む霊園の節電対策

昨年は福島第一原発の事故があつて、政府や関電からの節電要請を受け、我々霊園管理部も節電対策を採りました。夏はエアコンの設定温度を上げ、夜間照明を消し、管理棟照明も減らしました。これが功を奏し電気代の請求額が下がり、電気消費量は半分まで減りました。その他自販機を省エネタイプに入れ替、そして十月以降に太陽光発電(最大出力4.6kW)を開始いたしました。この度美原東の新管理棟におきましても八月より太陽光発電(最大出力5.76kW)を設置しより一層節電致します。今後より良い霊園運営に努めてまいります。

美原ロイヤル電気代推移表



## 霊園主催行事のお知らせ

### 美原ロイヤルメモリアルパーク

先祖供養堂(霊園主催埋葬者供養会)

- 八月十五日(水) 十時三十分  
導師 高野山真言宗 法願寺
- 九月二十二日(土) 十時三十分  
導師 高野山真言宗 法願寺

佛乗寺永代供養墓

- 八月十二日(日) 十時三十分
- 九月二十三日(日) 十時三十分

法願寺涅槃陵

- 八月十五日(水) 十二時
- 九月二十二日(土) 十二時

関西メモリアル ペット合同供養墓「愛」

- 九月十六日(日) 十時三十分  
導師 高野山真言宗 法願寺

### 美原東ロイヤルメモリアルパーク

管理棟法要室(霊園主催埋葬者供養会)

- 八月十一日(土) 十時  
導師 浄土真宗本願寺派 圓乗寺
- 九月二十三日(日) 十一時  
導師 浄土真宗本願寺派 圓乗寺

集合型永代供養墓 夫婦永代供養墓

永代供養合葬墓「絆」

- 八月十一日(土) 十時三十分  
導師 浄土真宗本願寺派 圓乗寺
- 九月二十二日(土) 十時三十分  
導師 高野山真言宗 法願寺

圓乗寺永代供養墓

- 八月十一日(土) 十時三十分

当霊園の墓地購入者様への専用情報欄である為  
一般には非公開とさせていただきます。

# 霊園から お盆・彼岸の ご案内

美原東ロイヤルメモリアルパーク  
新管理棟完成！

この七月かねてから念願の新管理棟が完成致しました。一階は墓参者の皆様の休憩スペースと事務所スペース、二階は同じく休憩スペースと法要室になっております。パリアフリー設計、エレベーターも完備しておりますので、車椅子の方も楽々二階にお上がり頂くことが出来ます。皆様にご活用いただければ幸いです。

二階の法要室は八月四日より利用可能で、日々法要予約受付中です。料金は二時間の利用で二万円(祭壇貸出料込)となっております。

お盆の墓参は、八月十日(金)～  
八月十六日(木)

お盆の墓花は造花の蓮の蕾をアレンジし、ローソク線香セット付きで、従来通り二千三百円にて販売させて頂きます。送迎に付きましては、十一日(土)・十二日(日)・十五日(水)は送迎バスを増便いたします。

秋季彼岸の墓参は、九月十九日(水)～  
九月二十五日(火)

この期間、墓花はローソク線香付で千八百円となります。彼岸の墓参は二十二日(土)・二十三日(日)に集中するかと思われ、駐車場は午前中がいつも一杯となりますので、墓参時間を午後や夕方方にされるのもひとつの選択でしょう。

尚、二十二日(土)・二十三日(日)は送迎バスを増便いたします。



美原ロイヤル&美原東ロイヤル墓参送迎バス  
出発時刻表全便予約制。  
定員17名。

平成24年 8月													月
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	日	曜日	
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	曜日	
通常	霊園主催孟蘭盆供養会 法願寺涅槃陵 孟蘭盆供養会	通常	通常	佛乘寺永代供養墓 孟蘭盆供養会	通常	通常	通常	定休日	祝祭日振替休館日	祝祭日振替休館日	美原	管理事務所 美原東	
通常	臨時開館	通常	通常	通常	霊園主催孟蘭盆供養会 圓乗寺永代供養墓 永代供養台葬墓「絆」 集句型永代供養墓 夫婦永代供養墓 孟蘭盆供養会	通常	通常	定休日	通常	通常	美原東		
通常	増便	運行	運行	増便	増便	運行	運行	定休日	連休	連休	送迎バス	墓参	

平成24年 9月													月
27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	日
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	曜日
通常	定休日	通常	通常	佛乘寺永代供養墓 秋季彼岸供養会	霊園主催秋季彼岸供養会 法願寺涅槃陵 秋季彼岸供養会	通常	通常	臨時開館	通常	通常	ベトナム「愛」 秋季彼岸供養会	通常	美原
通常	定休日	通常	通常	霊園主催 秋季彼岸供養会	集句型永代供養墓 夫婦永代供養墓 永代供養台葬墓「絆」 秋季彼岸供養会	通常	通常	臨時開館	通常	通常	通常	通常	美原東
運行	連休	運行	運行	増便	増便	運行	運行	臨時運行	運行	運行	運行	運行	送迎バス 墓参

近鉄松原駅南口 ロータリー発	
第一便	10:10
第二便	11:40
第三便	13:50
臨時第四便	15:15

南海北野田駅東口 ライブ第二駐車場発	
第一便	9:30
第二便	10:55
第三便	14:30
臨時第四便	16:00

■詳しくは、美原ロイヤル事務所までお問い合わせください。  
(072)363-1114

## ペット合同供養墓

美原ロイヤルメモリアルパーク



株式会社 関西メモワール

ペット葬祭部

〒587-0021 堺市美原区小平尾1059-26

TEL 072(363)3414 FAX 072(363)3014

